

## 平川彰名誉教授略年譜

- 大正 四年 一月二十一日 愛知県渥美郡老津村にて父全篤、母ゆうの次男として生まれる。
- 昭和 九年 九月 専門学校入学資格検定試験合格。
- 昭和 十一年 四月 一日 第八高等学校文科乙類入学。
- 昭和 十四年 三月三十一日 同右、卒業。
- 昭和 十四年 四月 一日 東京帝国大学文学部印度哲学梵文学科入学。
- 昭和 十六年 十二月三十一日 同右、卒業。
- 昭和 十七年 一月 東京帝国大学大学院入学。
- 昭和 十八年 十月 大学院特別研究生（昭和二十年九月まで）。
- 昭和 二十年 三月三十一日 東京帝国大学文学部に於ける東亜諸民族に於ける戒律の問題に関する研究調査を囑託さる（昭和二十一年三月三十一日まで）。
- 昭和 二十年 九月 東京帝国大学大学院満期退学。
- 昭和 二十一年 三月三十一日 東京帝国大学助手に任命さる。
- 昭和 二十五年 二月二十二日 北海道大学助教（法文学部）に補せらる。
- 昭和 二十八年 四月 一日 北海道大学大学院文学研究科委員会委員を命ぜられ、あわせて大学院研究科二年課程担当を命ぜらる。
- 昭和 二十九年 四月 一日 東京大学助教（文学部）に配置換を命ぜられ、あわせて大学院人文科学研究科

印度哲学担当を命ぜらる。

昭和三十一年十月一日 東京大学講師（教養学部）に併任さる（昭和三十九年まで）。

昭和三十二年十二月一日 第九回国際宗教学宗教史会議組織委員会実行委員を委嘱さる（昭和三十六年四月二十七日まで）。

昭和三十二年十二月十三日 中央選挙管理会（一部）委員を委嘱さる。

昭和三十四年三月十二日 『律蔵の研究』により、東京大学より文学博士の学位を授与さる。

昭和三十五年八月十五日 西ドイツ及びインドの各国へ出張を命ぜらる（昭和三十六年二月二十日帰朝）。

昭和三十七年四月一日 東京大学教授（文学部）に昇任、印度哲学第一講座担任を命ぜらる。

昭和三十八年五月四日 日本印度学仏教学会理事に推挙さる。

昭和三十九年三月三十一日 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学課程主任、ならびに人文科学研究科委員  
会委員を命ぜらる（昭和四十二年三月三十一日まで）。

昭和三十九年七月一日 インド哲学第二講座担任を命ぜらる。

昭和四十一年六月二十一日 インド共和国に出張を命ぜらる（昭和四十一年十二月二十四日帰朝）。

昭和四十二年三月十六日 学術奨励審議会委員に任命さる（昭和四十四年三月十五日まで）。

昭和四十三年五月二日 学術審議会専門委員に任命さる（昭和四十三年十二月三十一日まで）。

昭和四十六年二月一日 学術審議会専門委員に任命さる（昭和四十七年十二月三十一日まで）。

昭和四十八年四月一日 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学課程主任、ならびに大学院人文科学研究  
科委員会委員を命ぜらる（昭和五十年三月三十一日まで）。

昭和四十九年二月一日 学術審議会専門委員に任命さる（昭和五十年十二月三十一日まで）。

昭和四十九年五月九日 立正大学法華經文化研究所顧問を委嘱さる。  
昭和五十年三月三十一日 定年により東京大学を退職す。  
昭和五十年四月一日 早稲田大学教授（第一・二文学部本属）を嘱任さる。  
昭和五十年五月二十日 東京大学名誉教授の称号を授与さる。  
昭和五十年十一月八日 紫綬褒章を授与さる。  
昭和五十五年五月十一日 『阿毘達磨俱舍論索引』（共同研究）に対して日本学士院賞を授与さる。  
昭和五十八年六月十一日 日本印度学仏教学会理事長に推挙さる。（平成三年七月まで）。  
昭和六十年三月三十一日 定年により早稲田大学を退職す。  
昭和六十年七月 日本学術会議第一三三期会員（昭和六十三年六月まで）。  
昭和六十三年七月 日本学術会議第一四期会員（平成三年六月まで）。  
平成 四年七月三十日 学校法人国際仏教学院設立準備委員長に選任さる。  
平成 五年十二月十三日 日本学士院会員に選定さる。  
平成 七年十二月二十二日 学校法人国際仏教学院理事長に就任。  
平成 八年四月一日 国際仏教学大学院大学教授に就任（平成十四年三月三十一日まで）。  
平成十四年三月三十一日 逝去（享年八十八歳）。  
平成十四年七月十七日 国際仏教学大学院大学名誉教授の称号を追贈さる。

この間、北海道大学、愛知大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、早稲田大学、九州大学、東北大学、駒澤大学、立正大学等の非常勤講師を歴任。

## その他の役職

日本印度学仏教学会名誉理事、日本仏教学会理事（昭和三十八年より四十八年まで、五十一年より五十九年まで）、日本宗教学会理事（昭和三十八年より平成四年まで）、東京大学仏教青年会理事・理事長、財団法人インナーリップ国際交流協会理事（昭和六十一年より）、国際仏教交流センター理事（昭和四十八年より）、財団法人真照会理事・評議員、大法輪石原育英会評議員、在家仏教協会評議員などを歴任。

# 平川彰名誉教授著作目録

## 一 著 書

- 『律蔵の研究』〔改訂・著作集九・一〇〕  
『原始仏教の研究 ― 教団組織の原型―』  
〔増補・改訂・著作集一一・一二〕  
『生活の中の仏教』  
『初期大乘仏教の研究』〔増補・改訂・著作集三・四〕  
『現代人のための仏教』（講談社現代新書 二二三八）  
『仏教の歴史』  
『大乘起信論』（仏典講座 二二）  
『インド仏教史』上巻  
『インド・中国・日本仏教通史』  
『インド仏教史』下巻  
『縁起の世界』（精神開発叢書 六七）  
『八宗綱要』上巻（仏典講座 三九）  
『八宗綱要』下巻（仏典講座 三九）  
山喜房仏書林 一九六〇年九月 七九一、「八八」頁  
春秋社 一九六四年七月 一一、五四七、二三三頁  
春秋社 一九六六年七月 vi、二一五頁  
春秋社 一九六八年三月 一三、八一、三七頁  
講談社 一九七〇年九月 一九二頁  
仏乃世界社 一九七二年一月 二六八頁  
大蔵出版 一九七三年十月 四三八頁  
春秋社 一九七四年九月 六、三九八、三四頁、地図  
春秋社 一九七七年五月 三七七、一五頁  
春秋社 一九七九年九月 四一三、四一頁  
富山県教育委員会 一九八〇年一月 六二頁  
大蔵出版 一九八〇年十一月 四九五頁  
大蔵出版 一九八一年七月 四九八―九〇九頁

*Monastic discipline for the Buddhist nuns: an  
English translation of the Chinese text of the*

*Mahāsāṅghika-Bhikṣuṇī-Vinaya*

(Tibetan Sanskrit works series, No. 21)

『般若心経の新解釈』(パープル叢書)

『自在に生きる「涅槃経」』(仏教を読む 五)

『最澄 一天に心える』(高僧伝 三)

『釈尊の過去世物語 ー本生経ー』

(仏教選書 釈尊と仏弟子の物語)

『法華経の世界』(興福寺仏教文化講座 二)

『大乘仏教のこころ』(興福寺仏教文化講座 三)

『仏教入門』(仏教・入門シリーズ)

『大乘仏教入門』(レグルス文庫 二二六)

『仏陀の生涯 ー『仏所行讃』を読むー』

(新・興福寺仏教文化講座 三)

『仏教入門』[新装版]

『平川彰著作集』第一巻―第一七巻

Kashi Prasad Jayaswal Research Institute, Patna,  
1982. xvi, 434 p.

世界聖典刊行協会 一九八二年十二月 一八八頁

集英社 一九八四年四月 二六九頁

集英社 一九八五年十二月 二六七頁

筑摩書房 一九八七年三月 二六七頁

東方出版 一九八九年十二月 二一四頁

東方出版 一九九一年二月 一八九頁

春秋社 一九九二年十一月 xi、二五〇頁

第三文明社 一九九八年二月 二八二頁

春秋社 一九九八年三月 vii、二三六頁

春秋社 二〇〇三年十月 xi、二五〇頁

春秋社 一九八八年九月―二〇〇〇年九月

第一卷 ―法と縁起―

一九八八年九月

xvi、五九六、一〇頁

はしがき

第一章 原始仏教における「法」の意味

第二章 「存在」としての法

第三章 法宝の法の意味

第四章 四諦説の種々相と法観

第五章 縁起思想の源流

第六章 縁起と界

第二卷 ―原始仏教とアビダルマ仏教―

一九九一年六月

xv、五二五、一九頁

はしがき

第一篇 教団史研究

第一章 仏滅年代論―仏陀の入滅年代に関する資料の評価について

第二章 原始仏教の定義の問題

第三章 九分十二部経の原型と大乘経典との関係

第四章 アショーク王の七種の経名より見た原始経典の成立史

第五章 仏滅後の教団における阿難の位置―仏陀時代の中インドの地理

第二篇 原始仏教の思想

第一章 阿含の中道説

第二章 無我と主体―自我の縁起的理解、原始仏教を中心として

第三章 初期仏教の倫理——とくに倫理的主体の問題を中心として

第四章 原始仏教の倫理

第五章 原始仏教の認識論

第六章 信解脱より心解脱への展開

第三篇 アビダルマ仏教

第一章 原始仏教・アビダルマ仏教における時間論

第二章 仏教の時間論

第三章 有利那と刹那滅

第四章 説一切有部の菩薩論

第五章 説一切有部の認識論

第三卷 — 初期大乘仏教の研究 I —

一九八九年十一月 xiv、五六四、一二頁

はしがき

序論 初期大乘仏教の問題点

第一章 大乘經典の成立年代

第二章 部派仏教における菩薩思想の発展

第三章 初期大乘仏教の菩薩思想

第四章 菩薩の修行の階位

第四卷 — 初期大乘仏教の研究 II —

一九九〇年二月 xv、五〇一、一三頁

はしがき



第一章	初期大乘教団の組織
第二章	大乘仏教と塔寺
第三章	部派仏教と仏塔の關係
第四章	大乘教団と部派教団との關係
第五章	結論 菩薩教団の性格とその仏陀觀
第五卷	―大乘仏教の教理と教団―
はしがき	
第一章	大乘仏教の特質
第二章	大乘經典の成立と経録
第三章	空觀の性格
第四章	中論における法の意味
第五章	仏陀觀と心―大智度論を中心として
第六章	阿梨耶識と阿頼耶識
第七章	起信論の三大について
第八章	大乘の仏陀觀と佛像の出現
第九章	婆沙論より見たる大乘教団
第一〇章	大乘仏教の教団史的な性格
第十一章	部派教団における仏塔の地位の独立性
第十二章	カローシユティー碑文と大乘教団

一九八九年六月 xv、四八四、一三頁

第三章 律藏より見たる大乘教団

第四章 初期大乘教団における塔寺の意味―法華經・郁伽長者經・華嚴經淨行品を例として  
第六卷 ―初期大乘と法華思想―  
一九八九年一月 xvi、五一八、一三頁

はしがき

第一篇 大乘仏教の諸概念

第一章 大乘仏教の成立

第二章 大乘仏教の興起と文殊菩薩

第三章 大乘經典の發展と阿闍世王説話

第四章 十住毘婆沙論の著者について

第五章 大智度論における阿波陀那について

第六章 地の思想の發達と三乘共通の十地

第七章 大乘独自の十地

第八章 六波羅蜜の展開

第九章 般若經と六波羅蜜經

第一〇章 菩薩藏經と宝積經、六波羅蜜の研究

第二篇 法華經の研究

第一章 大乘仏教における法華經の位置

第二章 菩薩乘と仏乘

第三章 法華經における「一乘」の意味

第四章 開三顯一の背景とその形成

第五章 法華經の本流と「如来寿量品」の位置

第六章 大乘仏教の成立と法華經の關係

第七卷 —浄土思想と大乘戒— 一九九〇年十一月 xvi、四五三、一六頁

はしがき

第一篇 浄土教の研究

第一章 浄土思想の成立

第二章 浄土教の問題点

第三章 浄土教の用語について

第四章 浄土教の成立の問題

第五章 阿弥陀仏の經典と仏塔

第六章 觀經の成立と清浄業処

第七章 如来藏としての法蔵菩薩

第八章 阿弥陀仏と法蔵菩薩

第二篇 大乘戒の研究

第一章 初期大乘仏教の戒学としての十善道

第二章 大乘戒と十善道

第三章 大乘戒と菩薩戒經

第四章 初期大乘仏教の支持者としての善男子善女人

第五章 十住毘婆沙論における在家と出家

第六章 初期大乘仏教における在家と出家―とくに菩薩の三帰依について

第七章 華嚴經に見られる初期大乘仏教徒の宗教生活

第八章 仏教における宗教的実践の二重性、戒と律

第九章 懺悔とクシャマ―大乘經典と律藏の対比

第八卷 ―日本仏教と中国仏教― 一九九一年十一月 xvii、五五四、一六頁

はしがき

第一篇 インド・中国仏教の諸相

第一章 八相成道と八相示現

第二章 初期大乘仏教における在家と出家

第三章 縁起と性起―華嚴の唯心偈をめぐって

第四章 智顛の戒体論について

第五章 智顛における実相と法界

第六章 四分律宗の出現と十誦律

第七章 道宣の法華經観

第二篇 日本仏教の諸問題

第一章 日本仏教の教団的特色―とくに僧尼令の問題点

第二章 仏教学と宗学

第三章 勝鬘經義疏より見た十大受三大願と如来蔵

第四章 勝鬘經義疏の註釈における太子の態度

第五章 勝鬘經義疏と奈93との関係について

第六章 日本思想史と戒律仏教

第七章 凝念の戒律思想

第八章 授菩薩戒儀の研究

第九章 道元の戒観と律蔵

第一〇章 禅と戒律——十六条戒を中心として

第十一章 大蔵經の系譜

第九卷 — 律蔵の研究 I — 一九九九年六月 xii、四二四、一八頁

はしがき

第一章 律蔵の資料論的意義

第二章 漢訳律典翻訳の研究

第三章 經分別の成立より見た諸律の新古

第一〇卷 — 律蔵の研究 II — 二〇〇〇年二月 xii、三八二、二三頁

はしがき

第四章 波羅提木叉の研究

第五章 仏伝より見た受戒犍度の新古

第六章 犍度部組織の原形の研究

第七章 七百犍度より見た律蔵の形態

附録 律藏に引用される経典

第一一巻 — 原始仏教の教団組織Ⅰ—

二〇〇〇年六月 x、三二六、一六頁

はしがき

第一章 原始仏教におけるサンガの意義

第二章 サンガ結合の精神的紐帯

第二二巻 — 原始仏教の教団組織Ⅱ—

二〇〇〇年九月 ix、二八九、一四頁

はしがき

第三章 僧伽の二重構造—現前僧伽と四方僧伽

第四章 僧伽の構成員

第二三巻 — 比丘尼律の研究—

一九九八年六月 xxvi、七〇一、三六頁

はしがき

序章 比丘尼律の研究資料

第一章 比丘尼戒経の研究資料について

第二章 比丘尼戒経の「戒序」

第三章 比丘尼波羅夷法の研究

第四章 比丘尼僧残法の研究

第五章 比丘尼捨墮法の研究

第六章 比丘尼波逸提法の研究

第七章 提舍尼と衆学法、七滅諍法

第一四卷 — 二百五十戒の研究 I —

一九九三年二月 xx、五六八、一六頁

はしがき

序章 二百五十戒と波羅提木叉

第一章 「戒序」の研究

第二章 波羅夷法の研究

第三章 僧残法の研究

第一五卷 — 二百五十戒の研究 II —

一九九三年十一月 xx、六〇七、二三頁

はしがき

第四章 不定法の研究

第五章 捨墮法の研究

第一六卷 — 二百五十戒の研究 III —

一九九四年十一月 xxiv、六三五、二三五頁

はしがき

第六章 波逸提法の研究

第一七卷 — 二百五十戒の研究 IV —

一九九五年十一月 xxii、六五六、二八頁

はしがき

第六章 波逸提法の研究 (続)

第七章 波羅提提舍尼法の研究

第八章 衆学法の研究

第九章 七滅諍法について

二 著書・編著の外国語訳

『大乘佛教概説』

鄭承碩譯 金영사 一九八四年 三四九頁

『法華思想』

林久稚譯 文殊出版社 一九八七年 「二二、三八二頁

『佛敎研究入門』

양기봉 역 경서원 一九八八年十二月

『인도불교의 역사』 상 (깨달음총서 二)

이호근 역 민족사 一九八九年三月

『인도불교의 역사』 하 (깨달음총서 三)

이호근 역 민족사 一九八九年三月

『조기대승불교의 종교생활』 (깨달음총서 二二)

심법제 역 민족사 一九八九年六月

『佛學研究入門』

許明銀譯 法爾出版社 一九九〇年 五九七頁

*A history of Indian Buddhism: from Śākyamuni*

Paul Groner tr. University of Hawaii Press,

*to early Mahāyāna*

Honolulu, [1990]. xvii, 402 p.

『自由自在 — 涅槃經—』 (心靈雅集 二六)

心靈雅集編譯組譯 大展出版社 一九九二年 一八八頁

『유식사상』 (강좌대승불교 八)

이만 역 경서원 (운주사) 一九九三年二月

『울장연구』

박용길 역 토방 一九九五年八月

『如來藏思想』 (講座大乘佛敎 六)

중호 역 경서원 一九九六年十月 三三八頁

『법화사상』

차차석 역 여래 一九九六年十月

『현대인을 위한 불교 — 소개 —』

편집부 역 불일출판사 (운주사) 一九九六年



『法華思想』（講座大乘佛教 四）

『法華思想』（佛光經典叢書 一一五七）

『미구계의 연구』一

『印度佛教史』（人與宗教 一六）

### 三 共 著

*Shun-Chien-Pi-P'o-Sha: a Chinese version by*

*Saṅghabhadra of Samantapāsādhikā*

(Bhandarkar Oriental series, No. 10)

『阿毘達磨俱舍論索引』第一部

『阿毘達磨俱舍論索引』第二部

『阿毘達磨俱舍論索引』第三部

『仏の教え・信じるころ』

『大乘仏教 ― その教えと生き方―』

해학역 경서원 一九九七年九月

林保堯譯 佛光文化事業有限公司 一九九八年三月

三七四頁

해능역 민족사 二〇〇二年六月 六一〇頁

莊崑木譯 商周出版 二〇〇二年十月 六一五頁

Purushottam Vishvamath Bapat 共著 Bhandarkar

Oriental Research Institute, Poona. 1970. lxiii,

588 p.

平井俊榮 高橋壯 袴谷憲昭 吉津宜英共著 大蔵出版

一九七三年三月 iv、<sup>xxxiv</sup>、四三七頁

平井俊榮 高橋壯 袴谷憲昭 吉津宜英共著 大蔵出版

一九七七年三月 viii、五一七頁

平井俊榮 高橋壯 袴谷憲昭 吉津宜英共著 大蔵出版

一九七八年三月 vi、三八〇頁

望月良晃共著 春秋社 一九九四年十一月 二一二頁

望月良晃共著 春秋社 一九九八年十二月 二一二頁

〔前項著書の新装版〕

『法華経を読みとく』上

『法華経を読みとく』下

#### 四 編 著

『新・仏典解題事典』

『仏典解題事典』『新・仏典解題事典』の増補第二版

『仏教と心の問題』

『講座大乘仏教』全一〇巻

『仏教を読む』全一〇巻

『仏教研究入門』

『高僧伝』全一〇巻

『仏教研究の諸問題―仏教学創刊十周年記念特輯―』

望月良晃共著 春秋社 二〇〇〇年三月 二五五頁

望月良晃共著 春秋社 二〇〇〇年四月 二四三頁

中村元 玉城康四郎共編 春秋社 一九六六年九月  
vi、九、三八〇、四一頁

水野弘元 中村元 玉城康四郎共編 春秋社

一九七七年九月 iii、vi、一〇、四五二、四六八頁

山喜房仏書林 一九八〇年一月 三一、二〇頁

梶山雄一 高崎直道共編 春秋社

一九八一年十二月―一九八五年八月

松原泰道共編 集英社

一九八三年十月―一九八四年八月

大蔵出版 一九八四年六月 三八二頁

松原泰道共編 集英社

一九八五年五月―一九八六年二月

山喜房仏書林 一九八七年四月 二六八頁

『印度学仏教学研究索引』

『如来蔵と大乘起信論』

『佛敎漢梵大辭典』

『阿毘達磨俱舍論』—真諦譯對校— 第一卷

『阿毘達磨俱舍論』—真諦譯對校— 第二卷

『阿毘達磨俱舍論』—真諦譯對校— 第三卷

『阿毘達磨俱舍論』—真諦譯對校— 第三卷

山喜房佛書林 一九八七年六月 三、二二、五五一頁

春秋社 一九九〇年六月 vii、六六一頁

靈友会 一九九七年一月 三九、一四五〇頁

小林円照 冲本克己 藤田正浩校訂 山喜房佛書林

一九九八年二月 xi、二一一、三六頁

小林円照 冲本克己 藤田正浩校訂 山喜房佛書林

一九九九年二月 iv、一九一、一〇四頁

冲本克己 藤田正浩校訂 山喜房佛書林

二〇〇一年三月 ii、ii、一九二頁

## 五 訳 著

『コンゼ佛敎』—その敎理と展開— (大蔵選書 一五) Edward Conze 著 横山紘一共訳 大蔵出版

一九七五年三月 xv、三一九、一五頁、地図

『仏敎研究の歴史』 Jan Willem de Jong 著 春秋社 一九七五年五月

二〇八頁

六 訳注・解題

教誡新学比丘行護律儀

仏制比丘六物図

般若波羅蜜多心経

八千頌よりなる般若波羅蜜経

中論の頌

本生経（ジャータカ）

律宗綱要

解説 四分律

解説 十誦律

『国訳一切経 和漢撰述部』 諸宗部一四 大東出版社  
一九六〇年七月 一―三〇頁

『国訳一切経 和漢撰述部』 諸宗部一四 大東出版社  
一九六〇年七月 三一―五九頁

『世界古典文学全集』 七 ― 仏典Ⅱ ― 筑摩書房  
一九六五年七月 三〇三頁

『世界古典文学全集』 七 ― 仏典Ⅱ ― 筑摩書房  
一九六五年七月 三〇五―三五八頁

『世界古典文学全集』 七 ― 仏典Ⅱ ― 筑摩書房  
一九六五年七月 三五九―三七六頁

『世界古典文学全集』 六 ― 仏典Ⅰ ― 筑摩書房  
一九六六年五月 九四―一六九頁

『国訳一切経 和漢撰述部』 諸宗部四 大東出版社  
一九七〇年十一月 二八三―三三四頁

『国訳一切経 印度撰述部』 律部四 大東出版社  
一九七五年六月 三〇三―三一二頁

『国訳一切経 印度撰述部』 律部七 大東出版社

解説 摩訶僧祇律

一九七五年六月 五五一—五六一頁

『国訳一切経 印度撰述部』 律部一 大東出版社

一九七五年六月 三一三—三三三頁

解説 大乘戒經

『国訳一切経 印度撰述部』 律部二 大東出版社

一九七五年六月 三五三—三六一頁

解説 五分律・律論・根本説一切有部律

『国訳一切経 印度撰述部』 律部二六 大東出版社

一九七五年六月 四〇七—四三〇頁

〔解説〕

『仏 — 釈迦八相版画絵図 —』 上原徹 大矢正志画

溪声社 一九七七年六月 図八枚

## 七 論文

阿含小観

『仏教文化』 一八卷五四号 一九四三年七月

二〇—二五頁

無我観と人間存在

『大法輪』 二三年四月号 一九四八年四月

一三一—一九頁

律蔵の仏伝について

『倫理』 五四八号 一九四九年三月 一九—三四頁

大智度論に於ける阿波陀那について

『日本仏教学会年報』 一五号 一九五〇年九月

〔再録…著作集六、第一篇第五章〕

八四—一二五頁

戒と律との相違について

『宗教研究』 一一三号 一九五〇年十月  
一〇三—一〇五頁

現前僧伽成立の条件

『宗教研究』 一二九号 一九五二年三月 一—二六頁

仏教に於ける宗教的実践の二重性

『印度学仏教学研究』 一卷一号 一九五二年七月

〔再録：著作集七、第一篇第八章〕

一五三—一六二頁

三師七証について

『宗教研究』 一三一号 一九五二年八月 四七頁

原始仏教教団における裁判組織

『古代学』 二卷一号 一九五三年一月 一—一九頁

波羅提木叉の比較

『印度学仏教学研究』 一卷二号 一九五三年三月  
一三六—一三七頁

説一切有部の認識論

『北海道大学文学部紀要』 二号 一九五三年三月  
三一—一九頁

〔再録：著作集一、第三篇第五章〕

律藏韃度部の成立について

『印度学仏教学研究』 二卷二号 一九五四年三月  
三三一—四二頁

律藏の成立と浄法の関係

『印度学仏教学論集 —宮本博士還暦記念—』

花山信勝「ほか」編 三省堂 一九五四年九月

一三一—一四四頁

戒律より見たる根本真理

『印度学仏教学研究』 三卷一号 一九五四年九月

六一—六七頁

大乘仏教の教団史的性格

『大乘仏教の成立史的研究』 宮本正尊編 三省堂

〔再録：著作集五、第一〇章〕  
漢訳律典の性格

一九五四年九月 四四七―四八二頁

『印度学仏教学研究』三卷二号 一九五五年三月  
一六一―一三三頁

部派教団における仏塔の地位の独立性

〔再録：著作集五、第二章〕

『仏教史学』三卷三・四号 一九五五年八月  
一―一五頁

法句経

『現代仏教講座』第五卷 ―聖典・高僧篇―

古田紹欽「ほか」著 角川書店 一九五五年八月

二二―一二一九頁

僧伽に於ける制裁の問題

『宗教研究』一四五号 一九五五年十月 四三―六七頁

Japanese research on Buddhism since the Meiji

*Monumenta Nipponica* vol. XI, No. 3, Vol. XI, No. 4

period [E. B. Ceardel と共著]

1955.10, 1956.1 pp. 1-26, pp. 69-96

律における羯磨について

『宗教研究』一四六号 一九五五年十二月  
六六―六七頁

カローシユティー碑文と大乘教団

『印度学仏教学研究』四卷一号 一九五六年一月

〔再録：著作集五、第二章〕

二七〇―二七四頁

戒律より見たる仏教真理観

『仏教の根本真理』宮本正尊編 三省堂

一九五六年十一月 二五九―二八四頁

婆沙論よりみたる大乘教団の在り方

『日本仏教学会年報』二二号 一九五七年三月

二四九―二七四頁

十住毘婆沙論の著者について

〔再録…著作集六、第一篇第四章〕

初期大乘教団における塔寺の意味

〔再録…著作集五、第一四章〕

律藏より見たる大乘教団

〔再録…著作集五、第三三章〕

竜樹・天親

小乗仏教の倫理思想、業の倫理

―アビダルマ仏教の体系より―

仏教の二大思潮（中観仏教）

アショーカ王の七種の経名より見た原始經典の成立史

〔再録…著作集一、第一篇第四章〕

東南アジアにおける二人の宗教王

華嚴經に見られる初期大乘教徒の宗教生活

『印度学仏教学研究』 五卷二号 一九五七年三月

一七六―一八一頁

『宗教研究』 一五三号 一九五七年十二月

一七―三八頁

『印度学仏教学研究』 六卷一号 一九五八年一月

三四―四三頁

『しんらん全集』 九卷 ―先学篇― 普通社

一九五八年十二月 一五八―一六二頁

『世界倫理思想史叢書』 第五卷 ―印度篇―

中村元「ほか」編 学芸書房 一九五九年一月

二〇―二三九頁

『講座仏教』 第三卷 ―インドの仏教―

結城令聞「ほか」編 大蔵出版 一九五九年三月

一五―一七二頁

『印度学仏教学研究』 七卷二号 一九五九年三月

二七九―二八九頁

『宗教公論』 三〇卷一号 一九六〇年一月

二六―三三頁

『華嚴思想』 中村元編 法蔵館 一九六〇年二月



〔再録…著作集七、第二篇第七章〕

大乘戒と十善道

〔再録…著作集七、第二篇第二章〕

戒と律

生活における涅槃

大乘戒と菩薩戒經〔再録…著作集七、第二篇第三章〕

ロンドンの仏教

釈尊の仏教と現代

戒律と寺院

大蔵經第二十五卷の思い出

仏典の智識

ヨーロッパの中央アジア仏教写本

一四七—一九八頁

『印度学仏教学研究』八卷二号 一九六〇年三月

二八〇—二八七頁

『在家仏教』七二号 一九六〇年三月 八一—一三頁

『在家仏教』七六号 一九六〇年七月 四—六頁

『東洋思想論集——福井博士頌寿記念—』

早稲田大学出版部 一九六〇年十一月

五二—五四四頁

『在家仏教』八六号 一九六一年五月 九—一二頁

『あそか』五一号、五二号、五三号、五四号

一九六一年五月—八月 六八—七二頁、

四六—五一頁、四二—四七頁、四九—五二頁

『大乘禪』三八卷六号 一九六一年六月 八一—一二頁

『大正新脩大蔵經會員通信』一五号 一九六一年十月

二—三頁

『在家仏教』九一号、九二号 一九六一年十一月

六六—七三頁、六六—七三頁

『印度学仏教学研究』一〇卷一号 一九六二年一月

三二—四—三三三頁

律蔵の研究

大乘戒について

(再録)

戒壇の原意

戒律と道徳

願の宗教

在家仏教の在り方

大乘仏教の支持者としての善男子善女人

出家者の財施

涅槃のこころ

敦煌写本十誦律の草稿訳と敦煌への伝播

『研究論文集』 一二巻 — 文科系学会連合編 —

一九六二年三月 五一—五四頁

『浅草寺』 九八号 一九六二年三月 一三—二三頁

『仏教文化講座』 六集 浅草寺 一九六二年七月

一一三—一四〇頁

『印度学仏教学研究』 一〇巻二号 一九六二年三月

二七六—二九六頁

『日本仏教学会年報』 二七号 一九六二年三月

一三三—一五二頁

『在家仏教』 九九号 一九六二年六月 一四—二六頁

『宗教と社会』 三号 一九六二年六月 二—八頁

『宗教研究』 一七四号 一九六三年一月 九三—九四頁

『印度学仏教学研究』 一一巻二号 一九六三年三月

三五九—三六四頁

『在家仏教』 一一〇号、一一一号 一九六三年五、六月

二四—三四頁、五六—六六頁

『典籍論集 — 岩井博士古稀記念 — 』

岩井博士古稀記念事業会 一九六三年六月

五四五—五五一頁

無我と主体 — 自我の縁起的理解、原始仏教を

中心として— 「再録」著作集二、第二篇第二章」

The rise of Mahāyāna Buddhism and its

relationship to the worship of stūpas

九分十二部経の原型と大乘經典との関係

「再録」著作集一、第一篇第三章」

僧伽の超世間性と国家権力

初期大乘仏教の支持者としての善男子善女人

「再録」著作集七、第一篇第四章」

法華経の法味

生死の問題

勝鬘経義疏より見た十大受三大願と如来蔵

「再録」著作集八、第二篇第三章」

地の思想の発達と三乗共通の十地

「再録」著作集六、第一篇第六章」

生活と仏教の戒律

『自我と無我』 中村元編 平楽寺書店

一九六三年六月 三八一—四二二頁

*Memoirs of the Research Department of the Toyo*

*Bunko* No. 22 1963. pp. 57-106

『仏教思想史論集 — 結城教授頌寿記念—』 大蔵出版

一九六四年三月 九三—一〇頁

『印度学仏教学研究』 一二卷二号 一九六四年三月

一—三頁

『干潟博士古稀記念論文集』 理想社 一九六四年六月

一一三—一三〇頁

『世界仏教』 第一九卷第一号 一九六四年十一月

八二—八七頁

『高田学報』 五三号 一九六四年十二月 一一—二頁

『日本仏教源流研究紀要』 第二集 — 勝鬘経義疏論集—

一九六五年二月 八八—一一一頁

『印度学仏教学研究』 一三卷二号 一九六五年三月

二九〇—三二〇頁

『大法輪』 四十年九月号、十月号

一九六五年九月—十月 二六—三五頁、一三八—一四三頁

大乘仏教の成立〔再録〕著作集六、第一篇第一章〕

『古代史講座』 一二 — 古代思想と芸術 —

石母田正「ほか」編 学生社 一九六五年十一月

七〇—九六頁

仏性

文科系学会連合加盟学協会の動向

『四天王寺』 三〇三号 一九六六年一月 四—八頁

— 日本印度学仏教学会報告 I. 昭和三十九年度報告 —

『印度学仏教学研究』 一四卷二号 一九六六年三月

信解脱より心解脱への展開

『日本仏教学会年報』 三一号 一九六六年三月

〔再録〕著作集二、第二篇第六章〕

五一—六七頁

阿弥陀仏の経典と仏塔

『印度学仏教学研究』 一四卷二号 一九六六年三月

〔再録〕著作集七、第一篇第五章〕

三三—三三—三四六頁

イデオロギーの対立と仏教

『在家仏教』 一四六号 一九六六年五月 六一—二〇頁

仏教の倫理思想

『浅草寺』 一四一号 一九六六年六月

二〇—三三二頁

〔再録〕

『仏教文化講座』 一一集 浅草寺 一九六七年八月

序章

八三—一〇七頁

『新・仏典解題事典』 中村元 平川彰 玉城康四郎共編

〔再録〕

春秋社 一九六六年九月 三一—四九頁

『仏典解題事典』 水野弘元 中村元 平川彰

玉城康四郎共編 春秋社 一九七七年九月 (同右)

有利那と利那滅 「再録」著作集一、第三篇第三章

現代社会における宗教の役割

The twofold structure of the Buddhist sangha

転換期の仏教

初期仏教の倫理 —とくに倫理的主体の問題を

中心として— 「再録」著作集二、第二篇第三章

仏教の現代的意義の探求

初期大乘仏教の戒学としての十善道

「再録」著作集七、第二篇第一章

諸法無我の「法」

維摩経の世界

涅槃

釈尊との対話

『印度学仏教学論集 —金倉博士古稀記念—』

平楽寺書店 一九六六年十月 一五九—一七八頁

『あそか』 六九号 一九六六年十一月 七〇—八五頁

*Journal of the Oriental Institute* (Univ. of Baroda)

Vol. XVI, No. 2, 1966. 12. pp.131-137

『大法輪』 四二年三月号 一九六七年三月

一一六—一二二頁

『講座東洋思想』 第五卷 —仏教思想I—

宇野精一「ほか」編 東京大学出版会 一九六七年六月

四五—七四頁

『般若』 三二号 一九六七年八月 一一—一七頁

『仏教教団の研究』 芳村脩基編 百華苑

一九六八年三月 一六七—二〇三頁

『印度学仏教学研究』 一六卷二号 一九六八年三月

三九六—四一一頁

『春秋』 九一号 一九六八年三月 三一—五頁

『在家仏教』 一六九号 一九六八年四月 二八—三八頁

『大法輪』 四三年六月号 一九六八年六月

四〇—四二頁

勝鬘經義疏の註釈における太子の態度

〔再録：著作集八、第一篇第四章〕

現代の理性と仏教の智慧

仏教における戒の精神

原始仏教における「法」の意味

〔増補・改訂：著作集一、第一章〕

長阿含・法句經・般若心經のことば

律藏の羯磨について

大乘仏教の興起と文殊菩薩

〔増補・改訂：著作集六、第一篇第二章〕

仏教教団と社会とのかわりあい

法華經における「一乘」の意味

〔再録：著作集六、第一篇第三章〕

『聖徳太子研究』 四号 一九六八年八月 一一―一五頁

『大法輪』 四三年九月号 一九六八年九月

二六―三七頁

『婦一』 三二号 一九六八年十一月 一一―三〇頁

『早稲田大学大学院文学研究科紀要』 一四号

一九六八年十二月 一一―二五頁

『大法輪』 四四年一月号 一九六九年一月

七七―七九頁

『東洋文化論集 ―福井博士頌寿記念―』

早稲田大学出版部 一九六九年十二月

九〇―九二頁

『印度学仏教学研究』 一八卷二号 一九七〇年三月

一三九―一五二頁

『日本仏教学会年報』 三五号 一九七〇年三月

一一―一五頁

『法華經研究』 三 ―法華經の成立と展開―

金倉円照編 平楽寺書店 一九七〇年三月

五六五―六〇六頁

東大仏教青年会の目ざすもの

現代と仏教

中道の現代的意義

現代人の仏教とは何か

原始仏教の定義の問題

〔再録…著作集二、第一篇第二章〕

般若経と六波羅蜜経

〔再録…著作集六、第九章〕

E・ラモット教授の『大智度論フランス語訳註』

第三卷について

仏教の生死観

妙法蓮華の意味

勝鬘経義疏と奈93との関係について

〔再録…著作集八、第二篇第五章〕

忠延 ―心にのこる高僧伝、高野の十哲―

『女性仏教』 一五卷五号 一九七〇年五月

一六一―一九頁

『仏教文化』 復刊一卷二号 一九七〇年五月 二一―八頁

『般若』 三五号 一九七〇年八月 四三―四八頁

『新刊ニュース』 二〇三号 一九七〇年十月

一一―一三頁

『仏教研究』 創刊号 一九七〇年十二月 一一―一八頁

『印度学仏教学研究』 一九卷二号 一九七一年三月

九五―一〇三頁

『印度学仏教学研究』 一九卷二号 一九七一年三月

四三―四四頁

『智山教化研究』 三号 一九七一年三月 四〇―五二頁

『法華』 五七卷五・六号 一九七一年五月

一九―二六頁

『聖徳太子論集』 聖徳太子研究会編 平楽寺書店

一九七一年十一月 二〇七―二三〇頁

『真言宗智山派宗報』 四六年十二月号

一九七一年十二月 七―九頁

勝鬘經義疏に現れた聖徳太子の思想

大乘經典の發達と阿闍世王説話

〔再録〕著作集六、第一篇第三章〕

道宣の法華經觀

〔再録〕著作集八、第一篇第七章〕

如来藏としての法蔵菩薩

〔再録〕著作集七、第一篇第七章〕

阿含の中道説

〔再録〕著作集二、第二篇第一章〕

凝然の戒律思想

〔再録〕著作集八、第二篇第七章〕

仏教における道德論

(再録)

袈裟について

『四天王寺』 三七四号 一九七一年十二月

一四―二八頁

『印度学仏教学研究』 二〇卷一号

一九七一年十二月 一―一二頁

『法華經研究』 四 ―法華經の中国的展開―

坂本幸男編 平楽寺書店 一九七二年三月

三一―三四一頁

『浄土教の思想と文化 ―恵谷隆戒先生古稀記念―』

仏教大学 一九七二年三月 一―二八七―一三〇六頁

『仏教研究』 二号 一九七二年三月 一―一七頁

『南都仏教』 二八号 一九七二年六月 一―一七頁

『浅草寺』 二〇二号 一九七二年七月 一九―三二頁

『仏教文化講座』 一七集 浅草寺 一九七二年七月

三三―四九頁

『花さまさま ―山田無文老師古稀記念集―』

柳田聖山 梅原猛編 春秋社 一九七二年九月

一〇一―一二〇頁



三衣について

浄土教の問題点

〔再録…著作集七、第一篇第二章〕

禅と私

現代と仏教

彼岸と中道

六波羅蜜の展開

〔再録…著作集六、第一篇第八章〕

空観の性格

授菩薩戒儀と律蔵の比較

〔増補…著作集八、第一篇第八章〕

仏教は死をいかに見るか

阿弥陀仏と法蔵菩薩

〔再録…著作集七、第一篇第八章〕

道元の戒観と律蔵

〔再録…著作集八、第一篇第九章〕

『仏教思想論叢 — 佐藤博士古希記念 —』

山喜房仏書林 一九七二年十月 二五—二七五頁

『浄全月報』 二五号 一九七二年十二月 一—六頁

『法光』 九三号 一九七三年一月 一〇—一三頁

『青淵』 二八六号 一九七三年一月 二二—二四頁

『大法輪』 四八年三月号 一九七三年三月

二二—二九頁

『印度学仏教学研究』 二一卷二号 一九七三年三月

二二—三五頁

『比較思想』 五号 一九七三年五月 二七—四一頁

『伝教大師研究』 天台学会編 早稲田大学出版部

一九七三年六月 一—四九—一七〇頁

『大法輪』 四八年七月号 一九七三年七月

二二—三一頁

『インド思想と仏教 — 中村元博士還暦記念論集 —』

春秋社 一九七三年十一月 一六三—一七七頁

『道元禅の思想的研究』 榎林皓堂編 春秋社

一九七三年十一月 三八九—四三〇頁

仏教思想の展開

『大法輪』 四九年一月号 一九七四年一月

一三八―一五二頁

法華経と仏塔

『法華』 六〇巻一号 一九七四年一月 一三―二二頁

仏教の戒律の特色

『大法輪』 四九年二月号 一九七四年二月

一一〇―一二六頁

原始仏教教団における紛争解決について

『日本仏教学会年報』 三九号 一九七四年三月

二一―四〇頁

原始仏教・アヒダルマにおける時間論

『講座仏教思想』 第一巻 ―存在論・時間論―

〔改訂・著作集一、第三篇第一章〕

三枝充恵編 理想社 一九七四年四月

一八一―二二六頁

義浄

『大法輪』 四九年五月号 一九七四年五月

五四―六一頁

原始仏教の認識論

『講座仏教思想』 第二巻 ―認識論・論理学―

〔再録・著作集一、第二篇第五章〕

三枝充恵編 理想社 一九七四年六月 一五―五四頁

縁起説の問題点

『仏教研究』 四号 一九七四年九月 一―二三頁

仏性・慈悲の譬喩

『大法輪』 四九年十月号 一九七四年十月

一四〇―一四八頁

律蔵とカルマン

『仏教学セミナー』 二〇号 一九七四年十月

二六―四四頁

(再録)

迦絺那衣羯磨の意味について

梵網戒の精神

仏塔信仰と法華経

大乘起信論入門

空観の性格

〔再録…著作集五、第三章〕

自我と無我

原始仏教の倫理

〔再録…著作集二、第一篇第四章〕

無我観と真理

出家は人生の逃げ道か

人間本性の覚醒

『業思想の研究』 大谷大学仏教学会編 一九七五年三月

二六―四四頁

『仏教と哲学 ―梶芳光運博士古稀記念論文集―』

智山勸学会 一九七四年十二月 一三―三四頁

『禅味』 一七六集 一九七五年一月 一五―一七頁

『法華』 六一卷二号 一九七五年二月 一四―二二頁

『大法輪』 五〇年二月号 一九七五年二月

二二―三一頁

『講座仏教思想』 第三卷 ―倫理学・教育学―

三枝充憲編 理想社 一九七五年二月

二六五―二〇二頁

『早稲田大学大学院文学研究科紀要』 二〇号

一九七五年二月 二二―三九頁

『仏教の倫理思想とその展開』 壬生台舜編 大蔵出版

一九七五年三月 七―四四頁

『春秋』 一六三号 一九七五年三月 二三―四二頁

『あすあすあす』 八巻五号 一九七五年五月

一九―三三頁

『青淵』 三二四号 一九七五年五月 二四―二六頁

説一切有部の菩薩論

〔再録・著作集一、第三篇第四章〕

原始仏教における法の意味

中論における法の意味

〔増補・改訂・著作集五、第四章〕

律蔵に現れた禅の実践

聖徳太子と仏教文化

懺悔とクシヤマ

〔再録・著作集七、第二篇第九章〕

四諦説の種々相と法観

〔増補・改訂・著作集一、第四章〕

原始仏教教団と現代

お経に出て来る人物事典 ―比丘―

仏教の自然観

『三蔵』 一〇一号、一〇二号、一〇三号

一九七五年八月十月 一―七頁、一―八頁、一―八頁

『仏教における法の研究 ―平川彰博士還暦記念論集―』

春秋社 一九七五年十月 五―四〇頁

『仏教研究論集 ―橋本博士退官記念―』 清文堂

一九七五年十一月 八一―九四頁

『止観の研究』 関口真大編 岩波書店

一九七五年十一月 五一―七一頁

『大法輪』 五一年二月号 一九七六年二月

二二―二七頁

『法華文化研究』 二号 一九七六年三月 一―一五頁

『仏教研究』 五号 一九七六年三月 一―二五頁

『久遠』 二五号 一九七六年六月 六八―八五頁

『大法輪』 五一年七月号 一九七六年七月

一〇六―一一五頁

『春秋』 一七七号、一七八号、一七九号 一九七六年八、

七、十一月 四―九頁、四―九頁、一一―一六頁

禪と戒律

〔増補・改訂〕著作集八、第二篇第一〇章〕

智顛の戒体論について

〔再録〕著作集八、第一篇第四章〕

仏教辞典の系譜

禪と戒律

〔増補・改訂〕著作集八、第二篇第一〇章〕

法宝の法の意味

涅槃会と涅槃

釈尊の教団（一）―その組織―

浄土教の用語について

〔再録〕著作集七、第一篇第三章〕

（再録）

大藏經の系譜

〔増補〕著作集八、第二篇第一章〕

日本仏教の教団的特色

〔再録〕著作集八、第二篇第一章〕

『禪の世界』（禪研叢書）愛知学院禪研究所編

一九七六年十月 一三―四二頁

『仏教思想論集 ―奥田慈応先生喜寿記念―』

平楽寺書店 一九七六年十月 七五―七六八頁

『名著通信』二号 一九七六年十一月 二―四頁

『禅研究所紀要』六・七号 一九七六年十二月

三六―三七八頁

『仏教研究』六号 一九七七年二月 七―三二頁

『大法輪』五二年三月号 一九七七年三月

二二―二七頁

『禅文化』八四号 一九七七年三月 七〇―七七頁

『日本仏教学会年報』四二号 一九七七年三月

一―二五頁

『極楽の世界』坂本要編 北辰堂 一九九七年七月

九九―一一一頁

『名著通信』七号 一九七七年四月 二―五頁

『仏教の社会的機能に関する基礎的研究 ―日本仏教を

中心として―』古田紹欽編 創文社 一九七七年五月

一〇一—一二六頁

釈尊の教団(二) — 僧伽の儀式 —

『禪文化』 八五号 一九七七年六月 一一—一八頁

釈尊の教団(三) — 袈裟について —

『禪文化』 八六号 一九七七年九月 一〇—一七頁

空思想の発展

『在家仏教』 二八三号 一九七七年十月 二〇—三三頁

空思想より唯識へ

『在家仏教』 二八四号 一九七七年十一月

二〇—三二頁

戒律と食物の関係

『禪文化研究所紀要』 九号 — 山田無文老師喜寿記念  
特集号 — 一九七七年十一月 五七—七七頁

仏教学の立場から見た『大日本仏教全書』の

『名著通信』 第一五号 一九七七年十二月 八一—一頁

今日的意義(鎌田茂雄氏との対談 一)

釈尊の教団(四) — 食物の問題 —

『禪文化』 八七号 一九七七年十二月 一一—一八頁

仏教学の立場から見た『大日本仏教全書』の

『名著通信』 第一六号 一九七八年一月 七—九頁

今日的意義(鎌田茂雄氏との対談 二)

原始仏教研究の問題点

『仏教研究』 七号 一九七八年二月 一—七頁

釈尊の教団(五) — 教団統制の問題 —

『禪文化』 八八号 一九七八年三月 一一—一九頁

経録の問題点

『仏教学』 五号 一九七八年四月 二六—四七頁

釈尊の教団(六) — 二百五十戒 —

『禪文化』 八九号 一九七八年六月 一三—二〇頁

サンガの理念

『文化庁宗務時報』 四三号 一九七八年六月

一六—二四頁

釈尊の教団（七）―二百五十戒（続）―  
縁起の思想

『禅文化』 九〇号 一九七八年八月 一五―二二頁  
『在家仏教』 二九七号 一九七八年十二月  
二二―三四頁

釈尊の教団（八）―二百五十戒（三）―  
律蔵におけるカルマンの問題

『禅文化』 九一号 一九七八年十二月 一七―二四頁  
『業思想研究』 雲井昭善編 平樂寺書店  
一九七九年二月 七三―九八頁

釈尊の教団（九）―二百五十戒（四）―  
聖典に現れる帝釈天

『禅文化』 九二号 一九七九年三月 一四―二四頁  
『柴又』 四八号 一九七九年四月 五六―六四頁  
『禅文化』 九三号 一九七九年六月 一三―二〇頁

大乘仏教と小乗仏教  
阿梨耶識と阿頼耶識

『法華』 六五卷九号 一九七九年九月 三〇―四六頁  
『仏教学』 八号 一九七九年十月 一―一九頁

〔再録〕著作集五、第六章  
開三顯一の背景とその形成  
〔再録〕著作集六、第二篇第四章〕

『法華経研究』 八 ―法華経の思想と基盤―  
中村瑞隆編 平樂寺書店 一九八〇年二月  
一三三―一七七頁

仏陀観について

『仏教学研究会年報』 一四号 一九八〇年七月  
一―二三頁

仏教における戒律

『仏教文化講座』 二四集 浅草寺編 一九八〇年七月  
二二―四五頁

俱舍論索引の完成まで（学術研究の動向）

菩薩について

仏陀観と心 —— 大智度論を中心として ——

〔再録：著作集五、第五章〕

The meaning of “Dharma” and “Abhidharma”

大乘仏教の中心思想（上）・（下）

仏滅後の教団における阿難の位置

〔再録：著作集二、第一篇第五章〕

仏教学と宗学

〔再録：著作集八、第二篇第二章〕

華嚴経の世界

法宝の法の意味

〔増補・改訂：著作集一、第三章〕

『学術月報』三三卷五号 一九八〇年八月

三六六一—三六八頁

『在家仏教』三一九号 一九八〇年十月 八一—二〇頁

『仏教学』第九・一〇特集号「仏教と心」

一九八〇年十月 一一—二四頁

*Indianisme et Bouddhisme: mélanges offerts à Mgr*

*Étienne Lamotte* Institut Orientaliste de Louvain,

Université Catholique de Louvain, Louvain-la-Neuve

(Publications l'Institut Orientaliste de Louvain, 23)

1980. pp. 161-175

『大法輪』五六年二月号、五六年三月号

一九八一年二月—三月 二二—三二頁 五〇—六〇頁

『仏教研究』一〇号 一九八一年三月 三一—四九頁

『東洋学術研究』二〇卷一号 一九八一年四月

一一—一七頁

『在家仏教』三二七号 一九八一年六月 三〇—四〇頁

『仏教の歴史的展開に見る諸形態 —— 古田紹欽博士古稀

記念論集——』創文社 一九八一年六月



日本仏教を見直す

大乘の仏陀観と仏像の出現

〔増補・改訂・著作集五、第八章〕  
解説

大乘仏教の特質

〔再録・著作集五、第一章〕

大乘仏教の成立と法華経の関係

〔再録・著作集六、第二篇第六章〕

菩薩乗と仏乗

〔再録・著作集六、第二篇第二章〕

日本思想史と戒律仏教

〔再録・著作集八、第二篇第六章〕

仏教における美術の意義

浄土教の成立の問題

〔再録・著作集七、第一篇第四章〕

大乘仏教における法華経の位置

一七二—一八七頁

『在家仏教』 三三〇号 一九八一年九月 六一—一五頁

『大乘仏教から密教へ—勝又俊教博士古稀記念論集—』

春秋社 一九八一年九月 二五—五〇頁

『坂本幸男論文集』 第一 —阿毘達磨の研究—

大東出版社 一九八一年十一月 四九七—五〇八頁

『講座大乘仏教』 一 —大乘仏教とは何か—

平川彰「ほか」編 春秋社 一九八一年十二月

一—五八頁

『法華経研究』 九 —法華経の文化と基盤—

塚本啓祥編 平楽寺書店 一九八二年二月 三一—三七頁

『法華文化研究』 八号 一九八二年三月 一一—一四頁

『東洋学術研究』 二二卷一号 一九八二年五月

一—一八頁

『密教図像』 創刊号 一九八二年六月 一一—一五頁

『浄土教の研究』 石田充之博士古稀記念論文集刊行会編

永田文昌堂 一九八二年九月 二一—四二頁

『講座大乘仏教』 四 —法華思想— 平川彰「ほか」編

〔増補・改訂…著作集六、第二篇第一章〕

『十住毘婆沙論』における在家と出家

〔再録…著作集七、第二篇第五章〕

摩訶僧祇律の梵本について

春秋社 一九八三年二月 一—四五頁

『竜樹教学の研究』 壬生台舜編 大蔵出版

一九八三年二月 一四—一八四頁

『仏教と文化—中川善教先生頌徳記念論集—』

高野山大学仏教学研究室編 同朋舎出版

一九八三年三月 四六五—四八二頁

Mañjuśrī and the rise of early Mahāyāna

Buddhism

*Journal of Asian Studies* (Institute of Asian Studies,

Madras) vol.1, no.1, 1983. 9. pp. 12-33

解説

『秘密の庫を開く「密教経典・理趣経」』（仏教を読む

七） 松長有慶著 集英社 一九八四年二月

一八一—二八五頁

密教の学問的性格

『弘法大師と現代』

真言宗智山派御遠忌記念出版委員会編 筑摩書房

一九八四年三月 五三一—六七頁

大乘経典の成立

『東洋学術研究』 二三卷一号 一九八四年五月

〔増補・改訂…著作集五、第二章〕

一〇九—一二三頁

総論 — 仏教研究の手引—

『仏教研究入門』 平川彰編 大蔵出版 一九八四年六月

七—三〇頁

観経の成立と清浄業処

『東洋の思想と宗教』 一号 一九八四年六月

〔再録：著作集七、第一篇第六章〕

解説

一―一八頁

『生とは何か「阿含経」』（仏教を読む 一）

金岡秀友著 集英社 一九八四年七月

二六五―二六九頁

解説

『ほんとうの道「法華経」』（仏教を読む 四）

中村瑞隆著 集英社 一九八四年七月

二八一―二八五頁

解説

『迷いを超える「法句経」』（仏教を読む 六）

松原泰道著 集英社 一九八四年八月

二八一―二八五頁

仏教学の学び方

『禅学研究』 六三号 一九八四年十二月 一―二四頁

浄土思想の成立

『講座大乘仏教』 五 ―浄土思想―

〔増補・改訂：著作集七、第一篇第一章〕

平川彰「ほか」編 春秋社 一九八五年一月

一―五四頁

存在と無常

『早稲田大学大学院文学研究科紀要』 三〇号

〔増補・改訂：著作集一、第二章〕

一九八五年一月 三一―四三頁

初期大乘仏教における在家と出家

『仏教学論集 ―中村瑞隆博士古稀記念論集―』 春秋社

〔再録：著作集八、第一篇第二章〕

一九八五年二月 一九五―二一〇頁

法華経における「如来寿量品」の位置

『仏教の歴史と思想 ―壬生台舜博士頌寿記念―』

〔再録…著作集五、第二篇第五章〕

仏教思想の中の唯識

大蔵出版 一九八五年二月 三一—一八頁

『大法輪』 六〇年四月号 一九八五年四月

一〇二—一〇七頁

仏教の時間論

『東洋の思想と宗教』 二号 一九八五年六月

一一〇—一三三頁

〔改訂…著作集二、第三篇第二章〕

現代文明と仏教の対応

『東海仏教』 三〇号 特集「現代世界と仏教」

一九八五年六月 一一—二二頁

縁起思想の源流

『仏教思想の諸問題 —平川彰博士古稀記念論集—』

春秋社 一九八五年六月 三—三二頁

〔増補・改訂…著作集一、第五章〕

《訃報》ラモット教授 (Etienne Lamotte, 1903-1983)

『印度学仏教学研究』 三四卷二号 一九八六年三月

七八九—七九四頁

戒律と密教

『密教学研究』 一八号 一九八六年三月 一一—二四頁

東洋学におけるコンピュータ利用の一例

『早稲田大学情報科学研究教育センター紀要』 三

および問題点と展望〔三崎良周他共著〕

一九八六年三月 八〇—八四頁

四分律宗の出現と十誦律

『南都仏教』 五六号 一九八六年八月 一一—二〇頁

〔再録…著作集八、第一篇第六章〕

仏教における教団史研究の意味

『大谷学報』 六六卷三号 一九八六年十二月

八一—八六頁

初期大乘仏教における人間観

『東洋における人間観 —インド思想と仏教を中心とし

て— 前田專學編 東京大学出版会

一九八七年二月 二八七—三九四頁

『仏教学』二二二号 一九八七年九月 一—二二頁

『印度哲学仏教学』二号 一九八七年十月 一—一九頁

〔増補・改訂：著作集五、第七章〕

Buddhism and the religious characteristics of  
the Japanese

*Japanese Buddhism: its tradition, new religions, and  
interaction with Christianity* Minoru Kiyota ed.,  
Buddhist Books International, Tokyo-Los Angeles,

1987. pp. 11-23

Buddhist literature: survey of texts

*Encyclopedia of religion* Mircea Eliade ed., v. 2,

Macmillan, New York, 1987. pp. 509-529

Stupa worship

*Encyclopedia of religion* Mircea Eliade ed., v. 14,

Macmillan, New York, 1987. pp. 92-96

仏教より見た生と死

『東洋学術研究』二七卷二号 一九八八年八月

四—二八頁

インド・中国・日本の仏教教団（講演）

『智山学報』三八号 一九八九年三月

一—三二—一五二頁

縁起と性起 — 華嚴の唯心偈をめぐる一

『南都仏教』六一・六二号 「唯心偈」特集

〔再録：著作集八、第一篇第三章〕

一九八九年六月 一—二四頁

The meaning of 'Dharma' in the concept of the  
"Jewel of the Dharma" (Dharmaratna)

*Amala prajñā: aspects of Buddhist studies* (Prof.  
P. V. Bapat felicitation volume) N. H. Santani and  
H. S. Prasad, eds. Sri Satguru Publications, Delhi,  
1989. pp. 235-249

如来蔵思想とは何か

『如来蔵と大乘起信論』平川彰編 春秋社  
一九九〇年六月 五―九六頁

臓器移植と生命倫理

『生命倫理を問う』日本生命倫理学会編 成文堂  
一九九一年四月 二七―三四頁

初期大乘仏教における在家と出家

『仏教学』三一号 一九九一年七月 一―三九頁

〔再録：著作集八、第一篇第二章〕

八相成道と八相示現

『南都仏教』六六号 一九九一年十月 一―二三頁

〔再録：著作集八、第一篇第一章〕

宗教と人間

『人間・科学・宗教』龍谷大学三五〇周年記念  
学術企画出版編集委員会編 思文閣出版

実相と法界

一九九一年十月 四五―七〇頁  
『天台思想と東アジア文化の研究 ―塩入良道先生  
追悼論文集―』山喜房仏書林 一九九一年十二月

三一―六頁

証卷に説かれる滅度の問題

『高田学報』第八十輯 一九九一年十二月 一―二〇頁

An evaluation of the sources on the date of the Buddha [増補・和訳：著作集一』第一篇第一章]

覚鑿における一密成仏の意義

The history of Buddhist nuns in Japan

The relationship between Patīccasamuppāda and Dhātu

The meaning of "Dharma". The Buddhist theory of existence

仏教における法について

(第53回「日本宗教学会」学術大会紀要特集)

文殊師利法王子の意味と一生補処

*The dating of the historical Buddha* Part I, Heinz

Becherl ed., Vandenhoeck & Ruprecht, Göttingen, 1991. pp. 252-295

『興教大師覚鑿研究——興教大師八百五十年御遠忌記念論集』春秋社 一九九二年十二月 四一—五六頁

Karma Lekshe Tsomo and Junko Miura tr., *Buddhist Christian Studies* v. 12, 1992. pp. 147-158

*Researches in Indian and Buddhist philosophy: essays in honour of Professor Alex Wayman* Ram

Karan Sharma ed., Motilal Banarsidass Publishers, Delhi, 1993. pp. 105-118

*Premier colloque Étienne Lamotte (Bruxelles et Liège 24-27 septembre 1989)* Hubert Durt ed.,

Institut Orientaliste, Université Catholique de Louvain, Louvain-la-Neuve, 1993. pp. 17-24

『宗教研究』六八卷四号 一九九五年三月 六九—七四頁

『印度哲学仏教学』一〇号 一九九五年十月 一—一〇頁

般若と識の相違

『日本学士院紀要』 五〇巻一号 一九九五年十一月  
一一二五頁

百丈清規と戒律

『仏教学』 三七号 一九九五年十二月 一一二二頁

大乘とは何か

『勝呂信靜博士古稀記念論文集』 山喜房仏書林

一九九六年二月 三一―一八頁

仏教の戒律の現代における意義

『大正大学総合仏教研究所年報』 一八号

一九九六年三月 一一―一六頁

私の仏教研究

『日本の仏教』 五号 ―ハンドブック 日本仏教研究―

日本仏教研究会編 法蔵館 一九九六年四月

一七六―一七八頁

智顛における声聞戒と菩薩戒

『天台大師研究 ―天台大師千四百年御遠忌記念―』

天台学会 一九九七年三月 一一二―一六頁

比丘尼律における共戒と不共戒の問題

『大正大学総合仏教研究所年報』 一九号

一九九七年三月 二七―五八頁

般若と識

『仏教思想文化史論叢 ―渡辺隆生教授還暦記念論文集―』

永田文昌堂 一九九七年六月 三二―二八頁

浄土の現代的意義

『人間浄土與現代社會 ―第三屆中華國際佛學會會議實錄―』

戚肩時等編 法鼓文化事業股份有限公司

一九九八年二月 五九―一七〇頁、



中村元博士の学問（総特集 中村元と現代）  
縁起と空

仏教の現代的課題 —— 中道観 ——

宮本正尊先生の佛教学

宮本正尊先生を偲んで

故中村元会員追悼の辞

『法華経』と戒律

仏教の根本的立場

中国語訳…五〇—五八頁、英訳…七一—八一頁

『春秋』 四〇〇号 一九九八年七月 一—四頁

『印度哲学仏教学』 一三号 一九九八年十一月

三四—三三五頁

『仏教文化学会紀要』 七 一九九八年十一月 二—五頁

『宮本正尊博士の世界 —— 人と思想 ——』 宮本正尊先生を

偲ぶ会 一九九九年六月 七二—七五頁

『宮本正尊博士の世界 —— 人と思想 ——』 宮本正尊先生を

偲ぶ会 一九九九年六月 八一—八三四頁

『日本学士院紀要』 五四卷三号 二〇〇〇年三月

一三九—一四三頁

『アビダルマ仏教とインド思想 —— 加藤純章博士還暦記

念論集 ——』 春秋社 二〇〇〇年十月

二二七—二二六頁

『仏 —— 智慧と教え ——』 吉田宏哲編 青史出版

二〇〇〇年十一月 一—一九頁

## 八書評

富貴原章信著『護法宗唯識考』

『古代学』五卷一号 一九五六年三月 九八—一〇〇頁

中村元監修『新仏教辞典』

『古代学』一一卷一号 一九六二年十二月

七六—七七頁

佐藤密雄著『原始仏教教団の研究』

『宗教研究』一七八号 一九六四年三月

一〇〇—一〇七頁

水野弘元著『パーリ仏教を中心とした仏教の心識論』

『宗教研究』一八〇号 一九六五年一月

一二四—一二九頁

山口恵照著『サーンキヤ哲学体系序説』

『古代学』一二卷二・三号 一九六五年十一月

一六八—一七一頁

塚本啓祥著『初期仏教教団史の研究』

『宗教研究』一九一号 一九六七年六月 八九—九四頁

桜部建著『俱舍論の研究 界・根品』

『仏教学セミナー』一〇号 一九六九年十月

六九—七三頁

富貴原章信著『賢聖義略問答の研究』

『古代学』一七卷四号 一九七一年三月

二四四—二四六頁

福原亮巖著『仏教概論』

『鈴木学術財団研究年報』一二・一三三

一九七六年十月 一〇八—一一〇頁

佐々木現順編著『煩惱の研究』

『鈴木学術財団研究年報』一二・一三三

蔡印幻著『新羅仏教戒律思想研究』

一九七六年十月 一六二—二六五頁

『鈴木學術財団研究年報』一五号 一九七八年十一月

六九—七一頁

佐々木教悟編『戒律思想の研究』

『仏教学セミナー』三六号 一九八二年十月

七一—七七頁

## 九 論文の外国語訳

僧伽的儀式

『法音』四号 一九八一年十一月 二六—二九頁

初期佛教の倫理 — 特以倫理主體的問題為中心 —

李世傑譯『佛教思想 — 在印度的開展 —』

第一冊 玉城康四郎主編 幼獅文化事業公司

一九八五年六月 四一—七二頁

中觀佛教(上)・(下)

許洋主譯『諦觀』二九号・三〇号

一九八五年九・十月 一—八頁、一〇—二六頁

漢譯大藏經

淨薰譯『諦觀』三七号 一九八六年五月

八—一頁

《法華經》在大乘佛教的地位(一)・(二)・(三)・(完)

『中國佛教』三〇卷九・一〇・一一・一二号

一九八六年九・十・十一・十二月 二六—三三頁、

一四—一八頁、一三一—三七頁、二四—二九頁

《阿毘達磨俱舍論》簡介

曇昕譯『諦觀』 五一号 一九八七年十月  
一一〇八頁

大乘佛教的法華經位置

林久稚譯『法華思想』 文殊出版社 一九八七年

佛教的兩大思潮(上)——中觀佛教——

許洋主譯『印度的佛教』 水野弘元等著 一九八八年

原始佛教的定義問題

吳信一·陳靜雯·吳老擇譯『妙林』 一卷二二號、

二卷一號·二號·三號·四號 一九八九年十二月、一九九〇年一·二·三月·四月 一〇—一二頁、八一—一〇頁、

一四—一六頁、二二—二四頁、一九—二〇頁

《華嚴經》中所見初期大乘教徒之宗教生活

李世傑譯『華嚴思想』 川田熊太郎等著 法爾出版社

一九八九年

廿一世紀佛教的使命(上)·(中)·(下)

陳靜雯譯『妙林』 二卷一號·二號·三號

一九九〇年一·二·三月 五—七頁、一一—一三頁、

九—一頁

四諦說之種種相與法觀(一)——(六)

吳老擇譯『妙林』 二卷四號·五號·六號·七號·八號·

九號 一九九〇年四·五·六·七·八·九月

二五—二七頁、二五—二六頁、一六—一八頁、五—八頁、

一一—一四頁、一三頁

律藏所引用經典之研究

淨薰譯『諦觀』 六六号 一九九一年七月 一—三六頁

健度部組織之原型的研究

許洋主譯『諦觀』 六七号 一九九一年十月

觀自佛傳的受戒犍度的新古

一一七九頁

許洋主譯『諦觀』六八号 一九九二年一月  
一六五—二四一頁

現代佛教的使命

『一九九〇年佛光山國際佛教學術會議論文集』

佛光山文教基金會編 佛光出版社 一九九二年

現代佛教的責務

『一九九〇年佛光山國際佛教學術會議論文集』

佛光山文教基金會編 佛光出版社 一九九二年

佛教學的方法論

『佛學研究』六号 一九九七年 一一七頁